



【写真 1】新幹線高架橋の崩壊現場（西宮市上田市，阪急今津線との交差点部，1/21撮影）。長スパンの桁が落下し，支柱は大規模な橋軸方向のせん断破壊による圧壊や沈下を起こしている。その前後の純ラーメン部分では支柱の柱頭に曲げ破壊が連続発生している。



【写真 2】新幹線高架橋純ラーメン部の詳細（西宮市松籬荘，1/21撮影）。柱頭の破壊部分に木片が見えるが，それよりもコンクリートの被り厚さの不足や帯筋が全く見られないことの方が問題かも知れない。



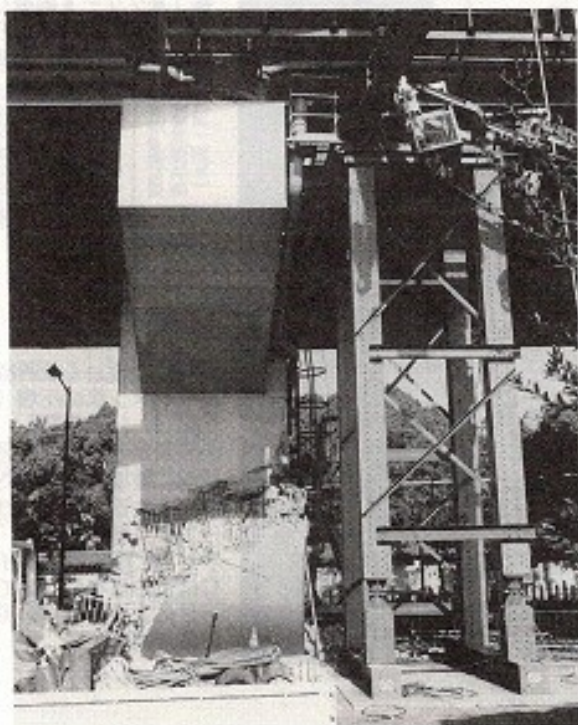
【写真 3】同じく新幹線高架橋純ラーメン部の圧壊（西宮市松籬荘，1/21撮影）。写真2の段階から比較的容易にこの状況に破壊が進行したものと考えられる。帯筋やコンクリート被り厚さの不足，主筋のサビなど施工管理サイドのRC構造の基本についての理解不足による災害（人災）との印象が強い。



【写真 4】阪神高速道路神戸線の長さ600mにわたる崩壊現場（東灘区深江本町，1/21撮影）。橋軸直交方向への柱脚部の曲げ破壊が崩壊にまで至ったものと考えられる。ピルツ工法による床板の損傷と転倒（北）側の柱脚部曲げ破壊がそれほどひどい状態でないことから、一連の破壊は極めて短時間のうちに連鎖的に発生したのと考えられる。



【写真 5】国道171号線の高架部（西宮市甲風園，1/21撮影）でも上記の写真4と類似の柱軸直交方向の曲げ破壊が発生している。両者にどのような条件の差があったのかは判からないが、紙一重であったような気がしないでもない。



【写真 6】阪神高速道路の被害（西宮市社家町）。高架橋の被害の大部分は橋軸方向への主柱のせん断破壊であった。柱頭へは例外なく西向きの力が作用している（写真は南側から撮影，1/21）。



【写真 7】大手前女子大学校舎の崩壊（西宮市御茶家所町，1/21撮影）。構内へ立入っていないため詳細は不明である。1階部分は完全に圧壊しており，隣接校舎も大破している模様であった。



【写真 8】三宮ビル北館(奥)と南館(手前)の被害（中央区，1/28撮影）。北館は3階部分が，南館は1階部分が夫々圧壊している。



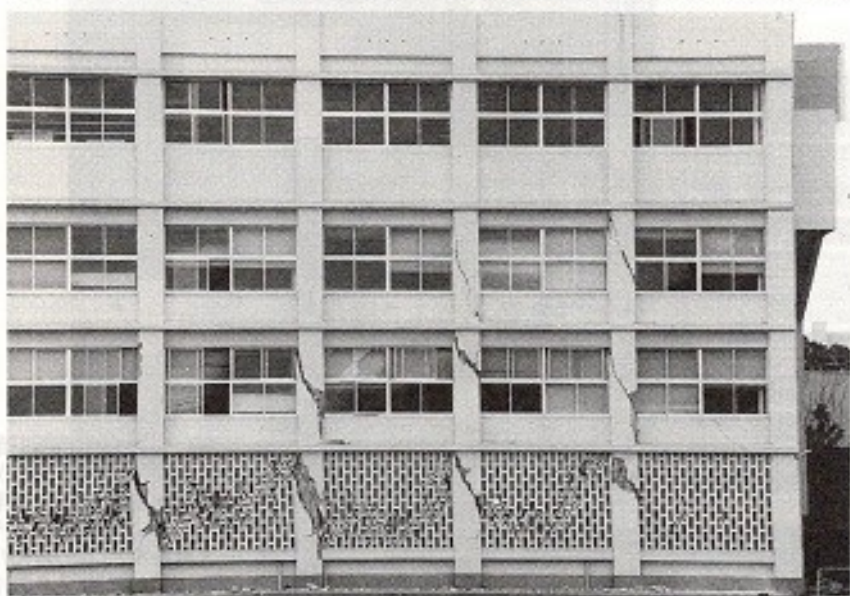
【写真 9】神戸市役所旧館の被害（中央区，1/28撮影）。6壊部分が長軸方向(北側)に圧壊している。隣接するリクルートビルや高層の新市庁舎には被害の痕跡は見られない。



【写真10】NHK神戸支局壁面のせん断亀裂は既にシートで覆われていた（中央区中山手通，1/28撮影）。NHKテレビの被災現場からの第1報はこの建物の前で行われた。また，強震の瞬間を撮影したビデオカメラはこの建物の3階に設置されていた。



【写真11】元町プラザビル壁面のせん断亀裂（中央区元町通，1/28撮影）。大破には違いないが，合理的とも思えるこの種の破壊形態は，人的被害を与える危険性は少ない。



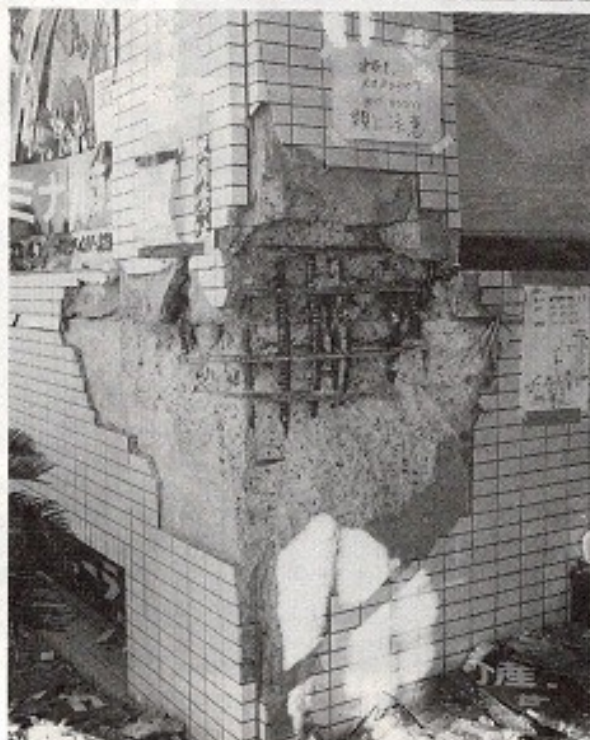
【写真12】甲南大学校舎のせん断亀裂（東灘区岡本，1/29撮影）。静的な1方向載荷を思わせる柱のせん断破壊が現われている（撮影は東側から）。この付近は木造住宅にも被害が多く見られる。



[写真13] JR摂津本山駅南側で1階部分が圧壊した本山マンション（東灘区田中町，1/29撮影）。1階はガレージとして使用されていた。この付近にはRC造マンションの被害が特に集中している。



[写真14] 同じくJR摂津本山駅前のマンション（東灘区田中町，1/29撮影）。1～2階の店舗部分が圧壊している。



[写真15] 同じ摂津本山駅前で崩壊を免れた商業建築（東灘区田中町，1/29撮影）。被災度はかなり重傷ではあるが，柱梁接合部の配筋が建物崩壊を防いでいる。



【写真16】頭上の危険に対して
余りにも無防備な場所が散見
される（中央区三宮町，1/28
撮影）。危険度判定の結果を
持つまでもなく，行政による
迅速な強権発動が望まれる。



【写真17】このような事態に直
面するとカメラを向けること
すら憚られ，遠方からズーム
で撮影する（東灘区田中町，
1/29撮影）。天上川に沿って
被害集中が見られる。



【写真18】灘神戸生協配送セン
ターの被害（東灘区甲南町，
1/29撮影）。天上川を挟んだ
手前の墓地は壊滅状態で礎石
まで転倒しているものもある
が，希には転倒を免れた墓石
も見受けられる。